



2020年10月30日

各 位

会 社 名 株式会社ワコールホールディングス
 代表者名 代表取締役社長執行役員 安原 弘展
 (コード番号 3591 東証第1部)
 問合せ先 執行役員 経営企画部長 三宅 弘晃
 (TEL. 075-682-1010)

2021年3月期第2四半期(累計)連結業績予想との差異
 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2020年7月31日に公表した2021年3月期第2四半期(累計)期間(2020年4月1日~2020年9月30日)の連結業績予想と本日公表の実績において、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。また、2021年3月期通期(2020年4月1日~2021年3月31日)の連結業績予想につきましても下記のとおり修正することとしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期第2四半期(累計)期間(2020年4月1日~2020年9月30日)の連結業績予想と実績の差異

	売 上 高	営 業 利 益	税 引 前 四半期純利益	当社株主に帰属す る四半期純利益	1株当たり当社 株主に帰属する 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	70,500	△3,200	△2,500	△2,400	△38.46
今回実績(B)	73,155	1,276	3,603	1,782	28.56
増 減 額 (B-A)	2,655	4,476	6,103	4,182	—
増 減 率 (%)	3.8	—	—	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	101,450	9,495	9,326	6,668	103.07

2. 2021年3月期(2020年4月1日~2021年3月31日)の連結業績予想の修正

	売 上 高	営 業 利 益	税 引 前 当期純利益	当社株主に帰属す る当期純利益	1株当たり当社 株主に帰属する 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	158,000	△5,000	△3,700	△3,700	△59.29
今回発表予想(B)	156,000	△1,000	300	△500	△8.01
増 減 額 (B-A)	△2,000	4,000	4,000	3,200	—
増 減 率 (%)	△1.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	186,760	6,632	4,359	3,472	54.26

3. 差異及び業績予想修正の理由

2021年3月期の連結業績予想を公表した7月31日時点では、緊急事態宣言の解除以降、第2四半期会計期間にかけて経済活動が再開し、徐々に回復する前提としておりました。消費者の行動範囲の縮小などにより、国内外ともに回復のペースは緩やかなものに留まりましたが、ECで高い成長を維持できたことに加え、グループ各社で経費削減に努めたことや、有価証券・投資評価損益（純額）の評価益を取り込んだ結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、前回公表予想値（2020年7月31日公表）に対し、売上高、営業利益、税引前四半期純利益、当社株主に帰属する四半期純利益ともに増加しました。

一方、海外では新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）の感染者数は増加傾向が続いており、国内においても再拡大への懸念など事業環境は引き続き不透明であります。現時点においても、感染症拡大の収束時期や消費の回復時期を予測することが困難なことから、下期計画については慎重に見直し、修正いたしました。

以上の結果、当期の連結業績予想については、前回公表予想値から売上高は20億円の減少となるものの、営業利益、税引前当期純利益ともに40億円、当社株主に帰属する当期純利益は32億円増加する見通しです。

なお、本連結業績予想にあたっては、感染症による再度の大規模な経済活動の停滞については想定しておらず、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。開示すべき重要な事項が発生した場合には、速やかに業績への影響を公表いたします。

引き続き、再成長と高収益の経営体質構築に向けた取り組みを推進し、オンラインとオフラインを融合するオムニチャネル戦略や徹底的な顧客起点によるバリューチェーン改革の実行などを通して、新たな時代でお客さまが求めるサービスや価値を継続的に提供してまいります。

※本資料に記載されている業績予想に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる場合があります。

以 上